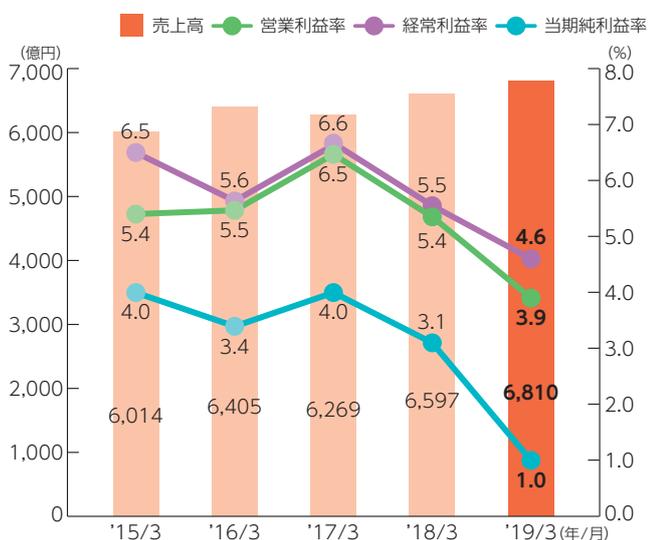


財務ハイライト2018 (5年間の連結財務指標)

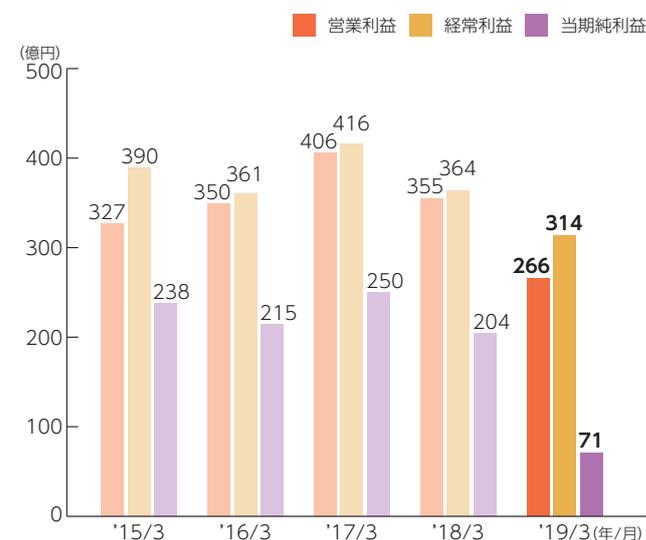
経営成績	決算期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高	(百万円)	601,434	640,516	626,950	659,730	681,006
営業利益	(百万円)	32,702	35,041	40,613	35,541	26,650
売上高営業利益率	(%)	5.4	5.5	6.5	5.4	3.9
経常利益	(百万円)	39,075	36,111	41,640	36,421	31,457
売上高経常利益率	(%)	6.5	5.6	6.6	5.5	4.6
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	23,873	21,592	25,098	20,495	7,104
売上高当期純利益率	(%)	4.0	3.4	4.0	3.1	1.0
収益性						
ROE(自己資本利益率)	(%)	9.9	8.3	9.3	7.2	2.5
ROA(総資産経常利益率)	(%)	7.9	7.0	8.0	6.6	5.5
EPS(1株当たり当期純利益)	(円)	98.29	88.90	103.70	86.45	29.97
PER(株価収益率)	(倍)	12.75	12.12	11.85	13.01	33.17
PBR(株価純資産倍率)	(倍)	1.2	1.0	1.0	0.9	0.8
財政状態						
総資産	(百万円)	526,521	506,221	537,909	568,380	573,198
自己資本	(百万円)	262,654	257,243	279,699	292,836	281,134
自己資本比率	(%)	49.9	50.8	52.0	51.5	49.0
設備投資	(百万円)	20,671	27,392	25,637	34,010	44,975
減価償却費	(百万円)	21,448	23,582	23,137	24,141	25,001
研究開発費	(百万円)	15,702	16,328	16,130	16,119	16,822
売上高比率	(%)	2.6	2.5	2.6	2.4	2.5
株主還元						
配当金	(円)	20	22	23	23	24
配当性向	(%)	20.3	24.7	22.2	26.6	80.1
キャッシュ・フロー						
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	44,858	42,674	55,664	49,811	36,794
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△24,433	△35,127	△27,753	△32,955	△42,299
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△5,264	△13,672	△16,916	△5,960	7,327
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	83,439	72,238	82,493	95,007	98,403

※「税効果会計に係る会計基準」の一部改正等を2019年3月期の期首から適用しており、2015年3月期から2018年3月期に係る指標等については、遡及適用後の指標等となっております。

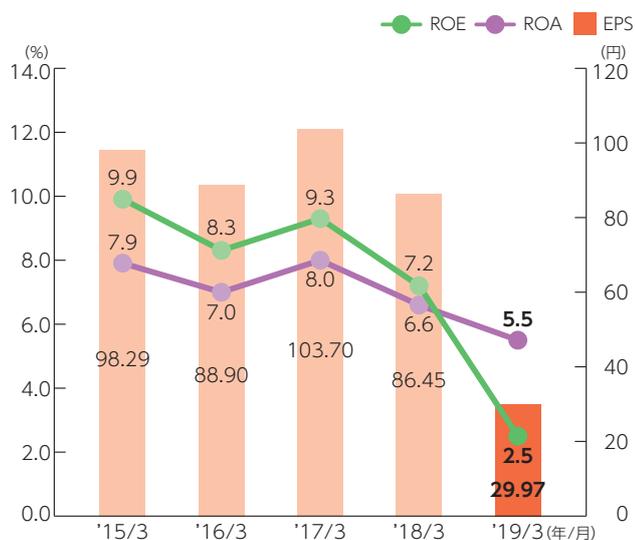
売上高



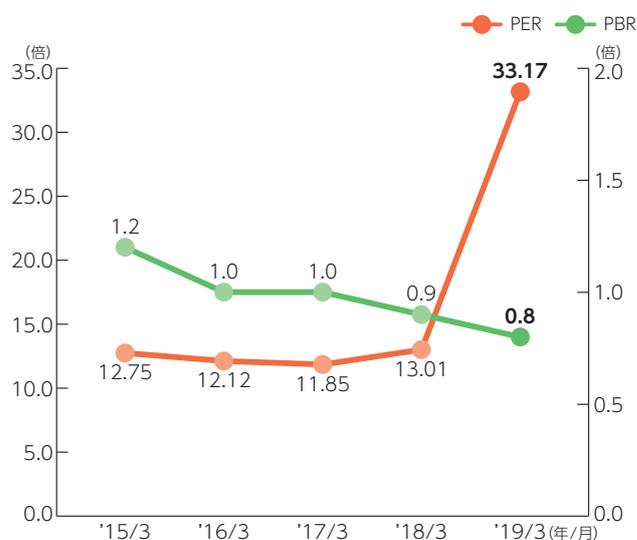
営業利益／経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益



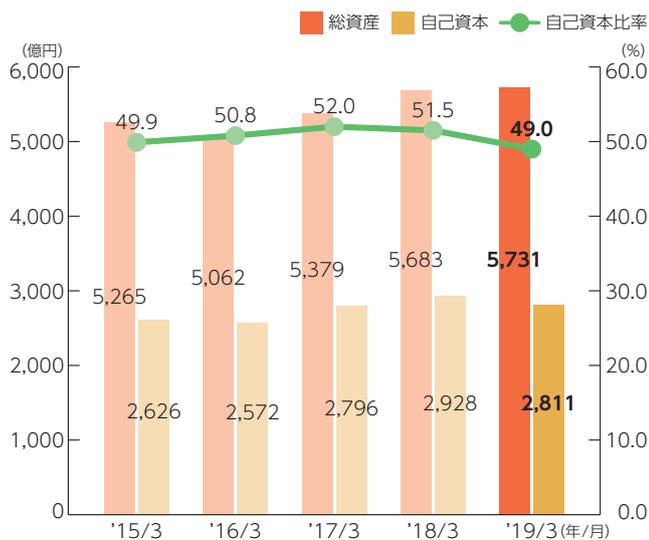
収益性 (ROE/ROA/EPS)



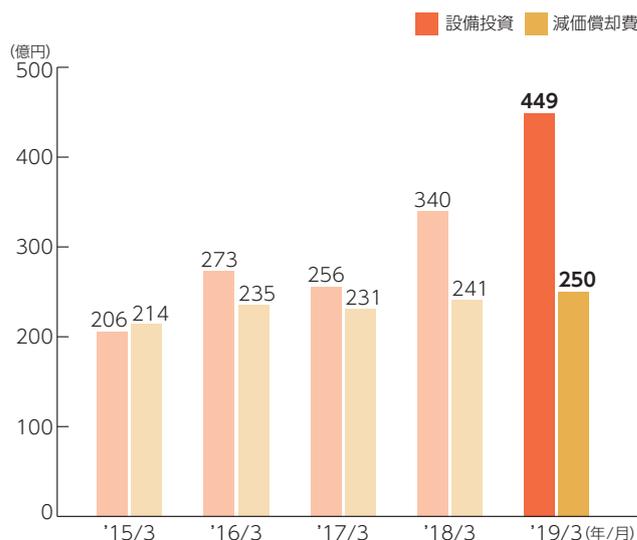
収益性 (PER/PBR)



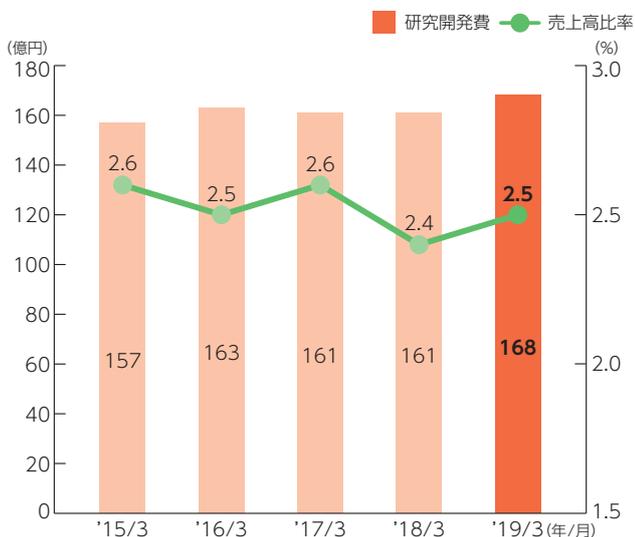
財政状態



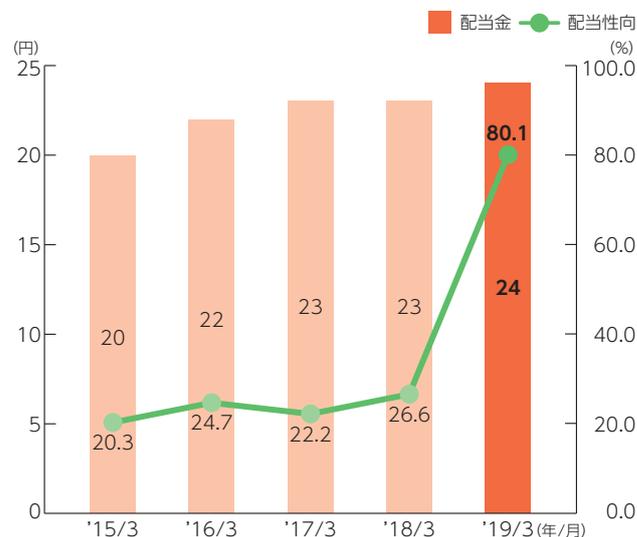
設備投資/減価償却費



研究開発費



株主還元



財務ハイライト2018 (経営成績に関する分析)

2018年度の経営成績

2018年度における日本経済は、雇用・所得環境の改善等から個人消費に持ち直しの動きがあり緩やかに回復しました。世界経済につきましては、米国では個人消費や設備投資が増加したことなどから景気は堅調に推移しました。アジア地域においては、中国では、景気は緩やかに減速しており、タイやインドでは景気の回復がみられました。

当社グループの主要な事業分野であります自動車関連市場においては、国内販売は、5,259千台で前期比1.2%の増加となりました。完成車輸出は、4,837千台で前期比1.1%の増加となりました。

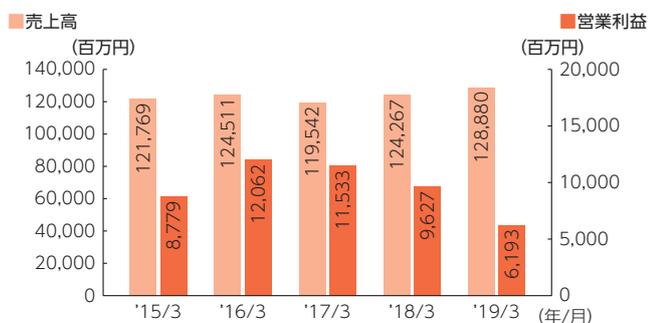
以上のような経営環境のもと、売上高はグローバルで拡大し681,006百万円(前期比3.2%増)、営業利益は受注製品構成の変化や新工場建設に伴う費用の増加等により26,650百万円(前

期比25.0%減)、経常利益は31,457百万円(前期比13.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益については、メキシコや米国にある当社グループ会社の生産設備の特別損失として減損損失11,525百万円を計上したことから、7,104百万円(前期比65.3%減)となりました。

2018年度の事業別セグメント概況

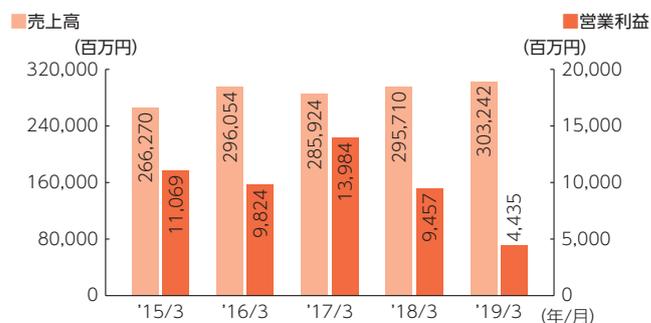
[懸架ばね事業]

懸架ばね事業は、売上高は128,880百万円(前期比3.7%増)、営業利益は、品種構成の変化等により、6,193百万円(前期比35.7%減)となりました。



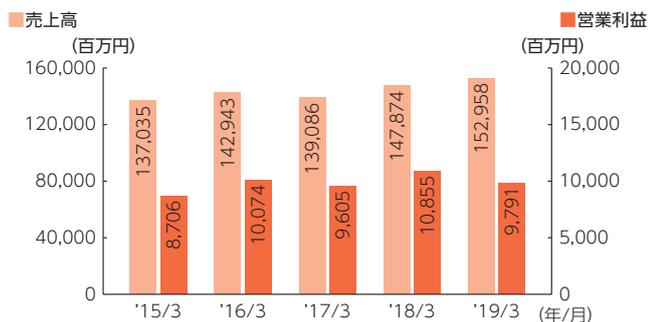
[シート事業]

シート事業は受注生産台数の増加等により、売上高は303,242百万円(前期比2.5%増)となりました。営業利益は、受注車種構成の変化等により、4,435百万円(前期比53.1%減)となりました。



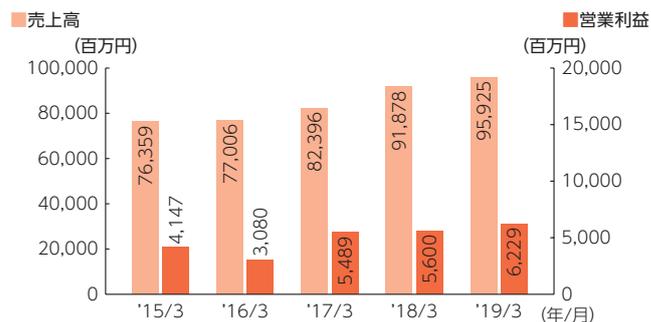
[精密部品事業]

精密部品事業は受注製品の数量増等により、売上高は152,958百万円(前期比3.4%増)となりました。営業利益は、新工場建設に伴う費用の増加等により9,791百万円(前期比9.8%減)となりました。



[産業機器ほか事業]

産業機器ほか事業は、売上高は95,925百万円(前期比4.4%増)、営業利益は6,229百万円(前期比11.2%増)となりました。



2018年度の財政状態

2018年度末の総資産は、現金及び預金や有形固定資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ4,818百万円増加し、573,198百万円となりました。

負債については、短期借入金や長期借入金の増加等により、前連結会計年度末に比べ16,405百万円増加し、277,137百万円となりました。

純資産については、その他有価証券評価差額金の減少等により、前連結会計年度末に比べ11,587百万円減少し、296,061百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動の結果得られた資金は、36,794百万円で前期と比べ

13,016百万円の減少となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の減少及び仕入債務の減少によるものです。

投資活動の結果支出した資金は、42,299百万円で前期と比べ9,344百万円の増加となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出の増加によるものです。

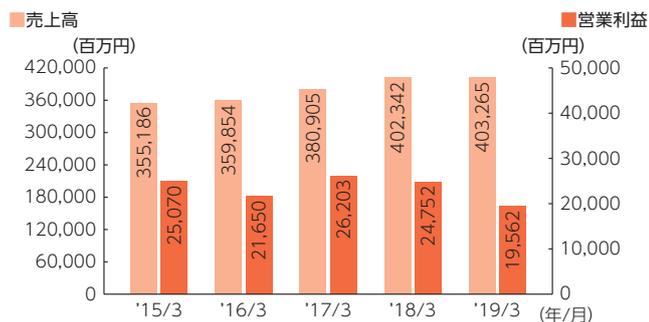
財務活動によるキャッシュ・フローは、7,327百万円で前期と比べ13,288百万円の増加となりました。これは主に長期借入れによる収入の増加によるものです。

営業活動によるキャッシュ・フローから投資活動によるキャッシュ・フローを差し引いたフリー・キャッシュ・フローは△5,504百万円となりました。

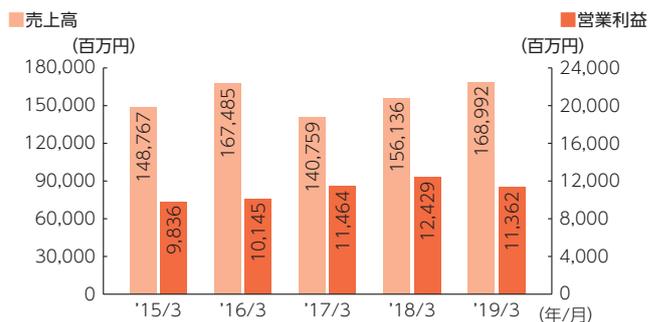
以上の結果、当期における現金及び現金同等物は前期末に比べ3,396百万円増加し、98,403百万円となりました。また、社債、コマーシャル・ペーパー及び長期・短期借入金は68,215百万円と前期末に比べて14,931百万円増加しました。

(参考)所在地別セグメント概況

[日本]



[アジア]



[米欧ほか(2019年度3月期より変更)]

